

2021年9月NHK中国地方放送番組審議会

9月のNHK中国地方放送番組審議会は、16日（木）、広島放送局において、10人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、「2021年度後半期の国内放送番組の編成」について説明があったあと、「2022年度の番組改定」も含めて意見交換を行った。続いて、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向、10月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委員長	松嶋 匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役）
委員	安彦恵里香	（Social Book Cafeハチドリ舎 店主）
	伊藤 康丈	（一般社団法人イワミノチカラ 代表理事）
	笠原 浩	（広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科 教授）
	河本 清順	（NPO法人 シネマ尾道 代表理事）
	福安 佳子	（鳥取大学 非常勤講師）
	古市 了一	（株式会社ふるいち 代表取締役）
	松浦奈津子	（株式会社Archis 代表取締役社長）
	松本 協一	（双湖事業化計画合同会社 代表社員）
	宮崎 智三	（中国新聞社 論説主幹）

（主な発言）

<「2021年度後半期の国内放送番組の編成」および

「2022年度の番組改定」について>

- 総合テレビの新たな広報番組「#NHK」についての説明の中で「NHK for School」について触れていたが、どのようなものかももう少し内容を詳しく知りたい。
- 「#NHK」についての説明の中で「NHK for School」について触れていたが、このホームページや掲載されているコンテンツに非常に魅力を感じているの

で、視聴者に積極的に紹介してほしい。

(NHK側)

Eテレやラジオ第2を中心に放送する学校教育番組や、学習内容を簡潔にまとめた動画をホームページで配信しているサービスを総称して「NHK for School」として提供している。「NHK for School」を視聴者に知っていただくことが重要だと認識しており、例えば「#NHK」で積極的に取り上げるなど広く周知を進めていきたい。

- BS4KやBS8Kを今後どのように展開していくのか。

(NHK側)

BS4KおよびBS8KはNHKにとって重要なチャンネルだと考えている。それぞれの特性に合った魅力的なコンテンツを編成していきたい。

- 新型コロナウイルスの影響により、連続テレビ小説の放送開始が従来の4月と10月ではなくなり、他の番組の改定時期とずれているため少し違和感を覚える。次回作「カムカムエブリバディ」の放送開始日も11月1日とのことだが、以前のような放送期間に戻すことを検討してみてはどうか。

(NHK側)

いただいた意見は、多くの視聴者の気持ちと共通するものだと受け止めており、制作現場とも共有しながら今後の編成に生かしていく。

- 東京オリンピック・パラリンピックがNHKを中心に民放各局でも連日放送されていたが、これは事前に民放各社と調整をして中継する競技や放送日時を決めているのか。またオリンピックなどの大きなスポーツイベントの放映権料が高騰し続けると聞かすが、NHKは今後も放映権を買い続けることにしているのか。

(NHK側)

大きなスポーツイベントを前にNHKと日本民間放送連盟加盟各社とでジャパンコンソーシアムを結成して放映権を取得、その後NHKをはじめ民放各社と競技中継の内容や日時を調整して決めている。受信料で成り立っているNHKにとって放映権を適正価格で得ることが重要であり、コスト増につながらないよう関係各所と連携しながら交渉を進めていく。

<放送番組一般について>

- 7月16日(金)しまねっとNEWS610(総合 後6:30~6:59 島根県域)を見た。「隠岐だより」のコーナーで、知夫村で牛を飼っている若い女性を紹介していたが、島での暮らしぶりがよくわかる内容だった。同じ県内に暮らしていても隠岐諸島の話題に触れることが少ないので、このような企画を今後も定期的に続けてほしい。

(NHK側)

隠岐諸島に民間通報員を配置して普段から取材活動を行っている。引き続き隠岐諸島の話題を伝えていく。

- 7月16日(金)さんいんスペシャル「どう立ち直る? コロナ禍の山陰経済」を見た。島根県内で有数のグループ企業の経営トップ自らがインタビューに応じ、経営環境の厳しさを詳細な数字とともに答えているのを見て驚いたと同時に、今後の動向に興味があったので継続取材を希望したい。番組ではさらにいくつかの地元企業を取り上げ、新型コロナウイルスの収束後を見据えてリノベーションに取り組んでいる様子などを伝えていたが、番組で取り上げた企業は自治体や国からの補助金を得て事業を行っているようで、他の企業にも取材を行うべきだったのではないかと感じた。
- さんいんスペシャル「どう立ち直る? コロナ禍の山陰経済」を見た。島根県内で有数のグループ企業の経営状況についてこれほど詳細に取り上げているのを見たこと

がなく非常に見応えがあったものの、真新しさはあまり感じられなかった。厳しい現状を伝えるだけでなく、危機を乗り切るための具体策や取り組みを紹介してもよかったのではないか。ゲストで日本総合研究所の藻谷浩介主席研究員の、山陰地方は世界的にみても新型コロナ新規感染者数が非常に少なく、安心・安全な場所であるため、人をひきつける魅力になるのではないか、といった指摘は初めて聞く意見で今後の可能性を感じることができた。

(NHK側)

このグループ企業に長期にわたる密着取材を申し入れたところ、受け入れてもらうことができた。今後も機を見て放送することにしていく。今回の番組では、コロナ禍の中でも非常に前向きに取り組んでいる山陰両県の企業を取り上げた。引き続き山陰経済の動向を取材していく。

(NHK側)

今後もさまざまなケースを取り上げ、山陰地方について松江局と一緒に考えていきたい。

- 7月16日(金) Yスペ!「今を、支えたい。～コロナ禍のひきこもり 求められる支援～」を見た。世話をする親が高齢で子どもも中高年という“8050問題”を取り上げていたが、ひきこもりに悩む家庭に寄り添い支援を続けるNPOの人々の温かい思いがよく伝わってきた。このような番組がきっかけとなって問題への理解が進み、社会がよい方向に変わっていけばと感じた。
- 8月10日(火) れいわのへいわソング(総合 後10:00~10:45 中国ブロック)を見た。歌を通じて広島から平和の尊さを伝えていくという趣旨の番組だったが、出演者のパフォーマンスやコメントからは被爆体験の継承や平和への思いはあまり感じられなかった。観客のほとんどが女性だったので、男性も関心を持つようなゲストの選定を考えるべきではなかったか。番組の構成はありきたりなもので真新しさはなく、番組タイトルにある「れいわ」という新時代を感じさせない演出だったので見ていて

残念だった。

(NHK側)

いただいた意見を参考に、今後の番組作りに生かしていきたい。

- 9月4日(土) 瀬戸内宝石箱「乳白色の恵み ～広島県・倉橋島～」(総合 前7:55～8:00 中国ブロック)を見た。空撮や水中撮影の映像がすばらしく、牡蠣をクローズアップで紹介する場面では、画面を通じておいしさが五感に強く訴えかけるように描き出されており、NHKの確かな技術力を感じた。この番組をはじめ4Kや8Kで制作された番組は自然を描写する内容が多くを占めているように思うが、自然以外の他のジャンルへは今後どのように展開していくのか。

(NHK側)

瀬戸内の魅力を伝えるため、2017年度に広島局と松山局が一緒に4Kで撮影して制作した。自然の魅力を伝えたり、芸術作品を詳細に記録したりする際に、4Kや8Kの技術は非常に有用だと感じており、他のジャンルへの展開についても今後検討していきたい。

- 9月10日(金) “テッパン” 話仕入れました！広島かたすみ食堂「アイデアさく裂！ピンチをチャンスに変える発明家たち」を見た。“鉄の町”として知られる福山市でユニークな取り組みを行う企業や人々を取り上げ、いずれも鉄を生かしつつ地元企業や地域社会のために役立ちたいという気持ちが感じられてとても心に響いた。アナウンサーもニュースを読むときとは違ってリラックスした雰囲気番組を進行しており、楽しく見ることができた。

(NHK側)

地域を盛り上げて活性化しようと取り組む企業や、地域の課題を解決しようと奔走する人々を取り上げた。いただいた意見を生かして、今後の番組制作の充実に努めていきたい。

- 9月10日(金)さんいんスペシャル「移住者を支える“島のほけんしつ”」を見た。隠岐諸島・海士町の“島のほけんしつ”で、オーナーが移住者の気持ちや暮らしに真摯に寄り添っている様子がとても心に響いた。近年、私の暮らす地域でも移住者が増えつつあり、地元で長く暮らす者として移住者に何ができるかを考えていたところだったので、とても参考になる番組だった。
- さんいんスペシャル「移住者を支える“島のほけんしつ”」を見た。ナレーションが番組の雰囲気とあってとても聞きやすかった。悩みや葛藤を抱えながらも“島のほけんしつ”を開業したときのエピソードをオーナーが語る場面は引き込まれて見えていたが、新規移住者の相談に乗る場面が続くなど単調な映像が続いたためか途中で飽きてしまった。最近は動画をよく見ているせいか25分間が長く感じられ、例えば15分にまとめるとより見やすくなるのではないかと感じた。

(NHK側)

地域に貢献しようと取り組む姿を密着取材したので、場面の切り替えが少なかったかもしれない。いただいた意見を参考に、編集や演出面で工夫していきたい。

- 9月10日(金)Yスペ!「ハチマキTVスペシャル」を見た。5月の放送で取り上げた人々のその後を追加取材して紹介するという構成であったが、それぞれの登場人物の様子に変化がほとんど見られず、拍子抜けした。スタジオではなく倉庫のような建物で収録したことや、マスクを着けたまま番組を進行していたこともあり、テレビ番組とは思えないような貧相な印象を受けた。スーパーの字が読みづらいなど改善すべき点がいくつもあるように感じられ、今後もこの企画を継続するのであれば、どうすれば楽しく見てもらえるか、工夫を凝らしていくことが必要だと感じた。
- Yスペ!「ハチマキTVスペシャル」を見た。取材に駆け回っていたリポーターらは活気があり、楽しく見ることができた。5月の放送で取り上げた方々のその後を取材していたが、わずか数か月しか経過していないので特に変化が見られず残念な内容だった。倉庫のような場所で番組を進めていたが、若者が好むような魅力的な場所で

はなく、雑多な雰囲気のある場所であったのも残念であった。

(NHK側)

今後の制作に際しては、いただいた意見を参考に番組作りに生かしていきたい。

- 東京オリンピック・パラリンピックの期間中、平日でも「情報維新！やまぐち」を放送しない日があったり、放送があっても日によって放送時間が違ったりするなど、とても見づらく感じた。山口県にゆかりのある選手がメダルを獲得すると、民放各社は夕方地域ニュースで早速取り上げていたが、NHKでは東京オリンピック・パラリンピックが終わってから大会のハイライトを放送するといった対応だったので、時機を逸した印象が否めなかった。地域情報を伝える時間をきちんと確保するなど、地域放送の充実を期待したい。

(NHK側)

東京オリンピック・パラリンピック期間中は、競技中継に多くの時間と人手を割いたこともあり、地域放送を伝える時間が短くなってしまった。地域情報の充実に向けて何ができるか、具体的な方策を考えていきたい。

- 6月20日(日)NHKスペシャル パンデミック 激動の世界(11)「検証“医療先進国”(前編)なぜ保健所は追い込まれたか」、27日(日)(12)「検証“医療先進国”(後編)なぜ危機は繰り返されるのか」(総合 後9:00~9:59)を見た。多くの民間病院が新型コロナウイルス患者を受け入れていない事実を明らかにし、このことが医療をひっ迫する原因の一つだと指摘していた。医療機関に余裕をもたらして緊急事態宣言の発出を抑える方向に進めていかないと、経済状況がますます悪化の一途をたどるのではないか。地方の経済は本当に危機的な状況にあり、中国地方でも同様の現象が起きていないか、取材を進めて状況を明らかにしてみてもどうか。

(NHK側)

コロナ禍における経済への大きな影響は深刻な問題だと受け止めており、今後も取材を行っていききたい。

- 8月9日(月)NHKスペシャル「原爆初動調査 隠された真実」(総合 後 10:00～11:15)を見た。残留放射線による人体への影響が政治的な思惑により隠蔽されていく過程がよくわかる内容であった。被爆者がまるで実験動物のように扱われてきた歴史や、アメリカの公式見解ではいまでも残留放射線の影響はないとしていることを知り戦慄を覚えた。残留放射線の影響や“グローバル・ヒバクシャ”の存在はいまや地球規模で問題になっており、番組の終盤を被爆地からの訴えという形でまとめていたのは残留放射線に関する問題を自らわい小化しているようで残念に感じた。

- NHKスペシャル「原爆初動調査 隠された真実」を見た。国内外のさまざまなキーパーソンに幅広く取材し、東京電力福島第一原子力発電所の事故をはじめ現在起きている課題にもつながる視点を盛り込んでいて非常に見ごたえのある番組だった。科学的な事実が政治によって歪曲されていく過程を詳細に描き出していた一方で、データや記録を詳細に取っておくことで、問題を取り巻く環境が変化すれば真実を明らかにできるという希望を感じることができた番組であった。政治と科学の関係については、8月7日(土)ETV特集「日本の原爆開発～未公開書簡が明かす仁科芳雄の軌跡～」でも取り上げており、科学技術の軍事転用の在り方を巡って難しい立場に置かれている現代の科学者にもつながる内容だと感じた。

(NHK側)

残留放射線の影響が政治的な思惑から隠蔽されてしまった過程や、政治と科学の関係の在り方などを綿密な取材をもとに描き出すことができた。

- 8月31日(火)中国地方推し!ラウンドちゅうごく「ひろしま魅惑の家物語」(BS1 前 0:35～1:00)を見た。広島県内の特徴的な家々を、歴史的、文化的な背景や客観的なデータなどを交えてわかりやすく伝えており、楽しく見ることができた。ナレーターに広島県出身の元モーニング娘。の鞘師里保さんを起用していたのが好印象

で、番組が明るい雰囲気で行っていたのもよかった。

- 9月6日(月) ハートネットTV あがるアート(6)「アートでいきいき！」を見た。岡山県内のあるA型の就労継続支援事業所のアート部門に従事している方々が生き生きと働く姿を見て強い共感を覚えた。廃材を利用してアート作品を制作、販売するとともに、作品の作り方を全国に広める取り組みを行う姿勢はすばらしいと感じた。作品のよさをうまく引き立てる映像は美しく、BGMも場面にあっており非常に見応えのある番組だった。この事業所のサービス部門の取り組みも目を見張るものがあり、次はSDGsの観点から取り上げてみてはどうか。

(NHK側)

岡山県内のA型作業所は先進的な取り組みを行っているところが多く、それらを「もぎたて！」で随時紹介している。この作業所についても紹介方法を検討したい。

- NHKプラスの見逃し配信を通じて、中国地方各局の地域色豊かな番組を見ている。広島県に住んでいると従来は見られなかった他県向けの番組を見ることができるようなのはとても有用で、今後も良質な番組づくりとラインナップの充実を期待している。
- 8月20日(金)さんいんスペシャル「がんばれ聖奈 ～鳥取初の金メダリスト～」を見た。鳥取県出身選手として五輪で初の金メダルを獲得した東京オリンピック・女子ボクシングの入江聖奈選手を、幼い頃からの貴重な映像の数々とともに紹介しており、NHKの取材力の高さに感心した。小学生時代から指導してきた伊田武志さんの「最初は普通の女の子だったが、一つの事を諦めずにずっとやり続けてきたからよい結果を出すことができた」という言葉は、多くの子どもたちに夢と希望を与えたのではないか。常に感謝の気持ちを忘れない入江選手の人柄や、故郷・鳥取県への郷土愛が感じられる大変よい番組だった。
- 7月17日(土)@okayama「一度は助かった命がなぜ ～西日本豪雨 災害関連死～」(総合 前 11:24～11:49 岡山県域)を見た。あまり取り上げられてこなかつ

た「災害関連死」についての理解が深まり、同じ悲劇を生まないために何が必要かを考えるきっかけとなった。西日本豪雨では本当にさまざまな要因で多くの人が亡くなっている事実には驚くとともに、被害に遭われた方々への支援を続けることが重要だと感じた。災害の記憶を忘れないためにも、また被災者のことを継続して考えるためにもぜひ継続的に取材してほしい。

NHK広島拠点放送局
番組審議会事務局